

## 5月の花 ホトケノザ

春早くから5月の終わり頃まで、畠のヘリや道ばたに群らがって咲いているホトケノザは、近よって見ると、可憐な美しさを持っています。赤紫の花の下の、向き合って茎を抱いた葉の形を「仮の座」に見立てた名前なのでしょう。林の中では決して見られないこの植物は、ナズナなどと共に、古い時代に畠作と一緒に日本に入ってきたのではないかと言われています。細かく観察すると、花びらが開かず、そのまま実になってしまう花(閉鎖花)があります。



## 5月の行事

### ○ 土曜観察会

5月10日 オトシブミのゆりかご(吉沢)  
5月24日 ハマヒルガオと松林(平塚海岸)

### ○ 体験学習シリーズ№42「タコを作ろう」

タコを作つてあげてみます。  
日時: 5月11日(日) 9時30分~16時  
申し込み: 4月23日までに往復ハガキで。  
定員: 20名 応募多数のときは抽選。  
対象: 小学校5年生以上とします。

### ○ 自然観察会 「初夏の海辺」

日: 5月18日(日) 午前9時~午後3時  
場所: 大磯照ヶ崎海岸

内容: 磯の動物・照ヶ崎の地質・海岸の礫など  
申し込み: 5月5日までに往復ハガキで。申し込み多数の時は抽選で30名。

### ○ 星を見る会「太陽黒点を観察しよう」

日時: 5月18日(日) 11時30分~13時  
申し込み: 5月8日までに往復ハガキで。  
定員: 30名 応募多数のときは抽選。

## 6月の行事

### ● 土曜観察会

参加希望者には、参加のしおりをさしあげますので、ハガキで申し込むか、博物館受付に申し出てください。

6月14日 カエルの声を聞こう 午後5時~8時 千須谷付近  
6月28日 帰化植物を調べよう 午後2時~5時 駅~博物館付近

### ● 星を見る会「水星・金星を見よう」

夕方、西空に見える水星と金星を観察します。  
日時: 6月3日(火) 午後6時~8時  
申し込み: 5月23日までに往復ハガキで。応募多数のときは抽選で30名。

### ● 体験学習シリーズ№43「土器を作ろう」

縄文中期、有孔つば付き土器を作ります。

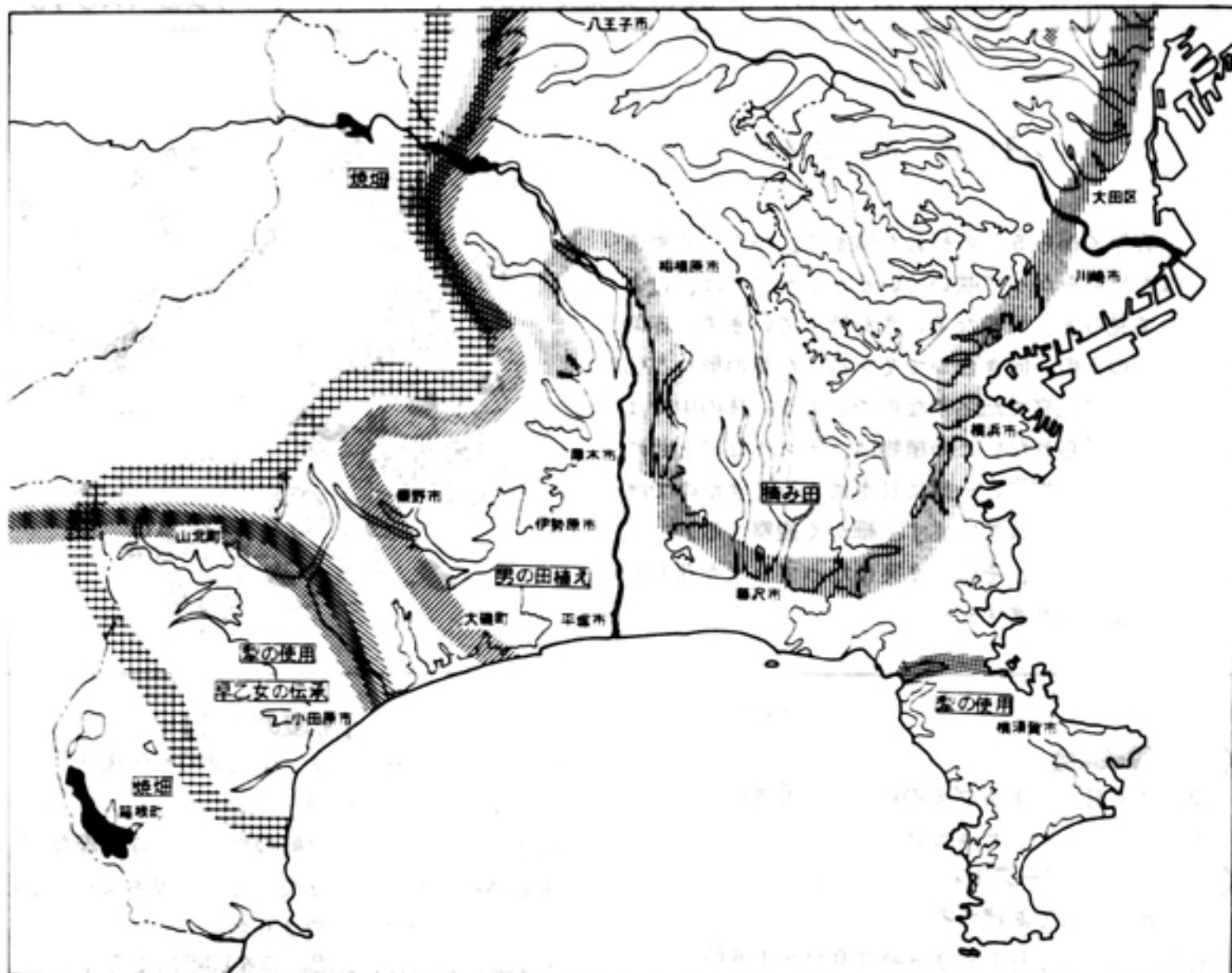
日時: 6月10日(火)、17日(火)、18日(水)  
申し込み: 5月31日まで往復ハガキで  
定員: 15名、三日間必ず参加できる方。応募多数のときは抽選。

### ● 自然観察会「初夏の自然をたずねて」

植物やカエル、ローム層などの観察をします。  
日時: 6月15日(日) 午前9時~午後3時  
場所: 土屋、琵琶周辺  
申し込み: 6月5日までに往復ハガキで。応募多数のときは抽選で30名

# 相模川流域の農耕文化

→ 2階展示室<26相模の民具>を見てください。



相模川流域の農耕のあり方をみると地域によって違いがあることがわかります。その違いをいくつかあげてみると上の図のようになります。摘み田、男の田植え、早乙女の伝承、スキ(犁)の使用、焼畑についてみたのですが、これらはそれぞれの地域の農耕文化の特色をあらわしているともいえます。

摘み田……田植えをせずに種穀を直接水田に点播して稲をつくる方法です。明治末あるいは大正初めごろまで行われていた稻作法で、相模川より東の台地(相模野台地)上の地域で広くみられました。この稻作法は関東地方の台地・丘陵間の谷やその縁の低地で行われ、相模野台地(茅ヶ崎・寒川・藤沢・大和・座間・綾瀬・相模原)から下末吉台地、多摩丘陵(横浜・川崎・

町田・多摩・八王子)、武藏野台地(大田・世田谷・杉並・豊島区など)、さらに大宮台地、狭山丘陵、入間台地など埼玉県内の台地・丘陵地の地域でもひろく行われていました。

蒔田(マキタ)ともいい、種穀に肥料を混ぜ、4月下旬から5月上旬に水田に一定の間隔で播いていきます。相模野台地の地域では堆肥(ツクテ)と種穀を混せて播きますが、埼玉県内では灰と混ぜるのが一般的となっています。6月下旬ごろになると稲が10~20cmに成長し、この時に1つ1つの株の大きさを一定にそろえていきます。

摘み田をしていた地域は、台地・丘陵上にあるムラで、稻作より畑作の方が盛んな地域です。つまり、摘み田は畑作優越地帯の稻作法として

行われていたということができます。

男の田植え……摘み田とは異なり、苗代で苗をつくる水田に移植（田植え）していく方法で、現在どこにでも見られる稻作法です。田植えを男がするか、女がするかということは一見何でもないことのように思われますが、日本の稻作の中では大変重要な問題です。相模川流域ではほとんどみられませんが、静岡県以西では田遊び、御田祭、中国地方では花田植え（ハナダウエ）といって、若い女性を早乙女（サオトメ）といい、きれいに着飾り、タイコの囃（ハヤシ）にあわせ、田植え唄を歌いながら田植えをする姿が昔はよくみられました。今では民俗芸能として残されているところが多くあります。

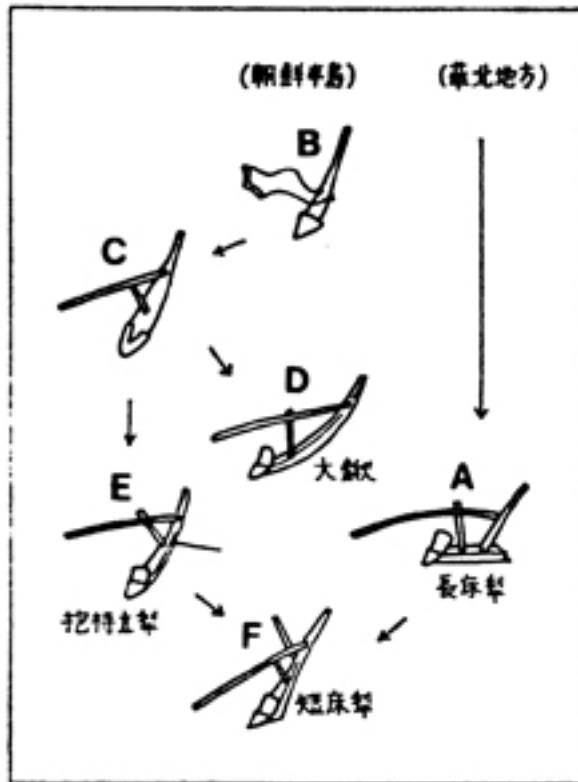
花田植えなどのようすからは、田植えが労働というよりも神事としての性格をより強く持っていたことがわかるのですが、男が田植えをする地域では、田植えにそのような性格がみられません。神奈川県内では大磯・秦野付近より東の地域で、田植えは男がするものだといいます。早乙女の伝承……先にあげたように、早乙女は田植えをする女性のことです。神奈川県内では箱根、南足柄、山北、小田原、大井など酒匂川流域以西で早乙女の伝承があります。全国的には早乙女の伝承を持つ地域は多く、田植えは女性が行うというのが一般的であるといえます。逆にいえば、男が田植えをする相模川流域などは、日本の稻作文化の中では特異な地域であるといえます。平塚など相模川流域は早乙女の伝承と摘み田地帯の接点ともなっているわけです。

犁（スキ）の使用……犁は水田を耕すのに使う農具で、平塚周辺では大正・昭和になってから使われ始めました。高北式など犁としては最も発達したものが導入されたのですが、酒匂川流域や三浦半島にはそれ以前の型の犁がみられます。これらの地域は平塚などより早くから犁を使っていたことがわかります。

犁の系譜を図示すると右図のようになりますが、平塚周辺の犁はF型の短床犁です。これに対し、古くから犁を使っていた酒匂川流域ではC型、三浦半島ではD型の犁が使われていました。また、伊勢原や厚木ではE型の抱持立犁が

使われていましたか、これの使用が一般的であったかどうかは十分な調査が進んでいません。

平塚周辺は犁が使われたのが遅く（関東地方では大正・昭和期以降使われたところが多い）、朝鮮牛の導入とともに使われ始めました。それ以前はクワやマンノウを使って田を耕していたわけです。



日本における犁の系譜（耜尾）

焼畑……現在みられる畑は定畑（じょうばた）といって、常にその耕地を畑として利用するのですが、焼畑（やきはた）というのは、一定期間畑として利用するとその跡にミツマタやハンノキを植えてします。山の斜面などの木を伐り払って焼き、整地して畑として利用する方法で、神奈川県ではカリハタ、キリカエ、サシなどと呼んでいます。山北、南足柄、箱根、津久井、藤野など県西部、北部の山地で行われていましたが、現在は行われていません。ソバ・ヒエ・アワ・マメ（大豆）・里芋などの作物を焼畑でつくりました。

#### 参考文献

和田正洲「日本の民俗—神奈川—」第一法規出版  
大藤時彦他「神奈川県史各論編5 民俗」神奈川県  
小川直之「関東地方の摘田の伝承」「平塚市博物館研究報告—自然と文化—」3号平塚市博物館  
飯沼二郎・堀尾尚志「農具」法政大学出版局  
(小川直之)

## 寄贈品コーナー

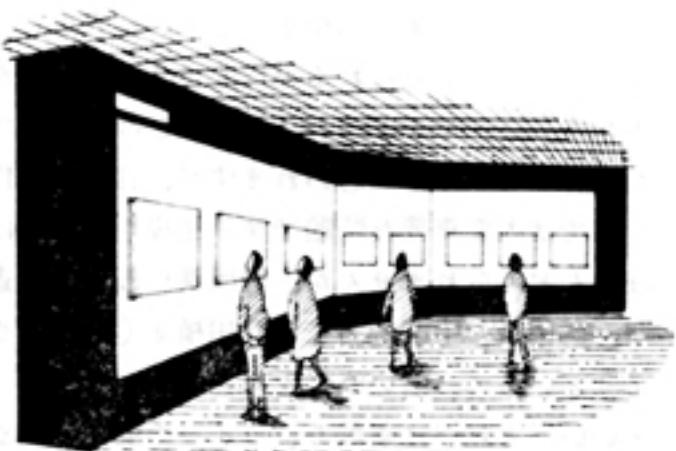
### ☆ シダ植物の世界—府川勝藏コレクション

5月30日まで

長年、小学校教育に貢献された故府川勝藏先生収集の植物標本が当館に寄贈され、このたびそのシダ植物約2,000点についての目録が発行されました。それを記念して、府川コレクションの全国のシダ植物から約30点を展示します。

### ☆ 二見利郎作品展 6月1日~7月30日

パステル画7点を展示します。



### 54年度の入館者数

54年4月~55年3月までに博物館を訪れた方の人数は、95,607人でした。うちわけは、開館日数277日、大人39,729人、小人55,878人でした。

17,246

